第７回広島県地域公共交通協議会議事録

１　日　　時　令和６年３月 21 日（木）　10:00～11:00

２　場　　所　ホテルメルパルク広島６階　安芸

３　出席委員　藤原会長、渡邉副会長、伊藤委員、神田委員、力石委員、迫田委員、山口委員、田中委員、奥井委員、岡崎委員、栗原委員、岡村委員、福岡（代理 金光）委員、吉田（代理 金光）委員、阪場委員、杉山（代理 岡田）委員

４　議　　事

広島県地域公共交通ビジョン（最終案）について

来年度以降の広島県地域公共交通ビジョンの推進について

５　配付資料

資料１－１　第６回協議会での意見及びパブリックコメントへの対応について

資料１－２　広島県地域公共交通ビジョン（最終案）

資料１－３　地域公共交通確保維持改善事業（ビジョン別冊）

資料２－１　来年度以降の広島県地域公共交通ビジョンの推進について

資料２－２　令和６年度収支予算（案）について

６　会議の内容（議事要旨）

藤原会長より、開会にあたってのご挨拶

（藤原会長）

○　本日は年度末も差し迫ったお忙しい中、ご参加いただきまして、ありがとうございます。本日が広島県地域公共交通ビジョンの策定に向けた最後の会である。自信あるビジョンの最終案が出来たと思っているので、本日もぜひ活発なご議論を頂戴したいと思う。

○　これまで２年間に渡りまして、委員の皆様に熱心にご議論いただいたビジョンだが、本日の議論をもって確定へと向かわせていただくので、よろしくお願いする。

１．広島県地域公共交通ビジョン（最終案）について

事務局より資料の説明

（藤原会長）

○　本協議会での議論と、県議会での意見及び、県民からのパブリックコメントを通じて取

りまとめた、資料 1-2 がビジョンの最終案である。この最終案で広島県の地域公共交通計画とする旨を本協議会として採決したいというのが本日の議題であるため、異議があれば、お伺いしたい。

（委員一同）

○　異議なし。

（藤原会長）

○　それでは特に異議がないようなので、この最終案をもって、広島県地域公共交通ビジョンの成案とする。

２．来年度以降の広島県地域公共交通ビジョンの推進について

事務局より資料の説明

（藤原会長）

○　これまで自治体の地域公共交通会議等は年度が変わると、仕切り直しという雰囲気もあったが、事務局より説明いただいた通り、策定段階から次年度にビジョンを実行するための推進体制を示していただいており、これは、非常に良い方向性と受け止めた。

○　また、事務局の説明においても関係者と連携しながら進めるということを強調されていたことも踏まえ、本日ご出席の各関係団体の委員の皆様から、忌憚のないご意見をいただきたい。

（岡村委員）

○　来年度以降のスケジュールについて、エリア分科会のキックオフが６月、協議会も６月だが、４月から２か月の空白があることは問題ないか。

○　切れ目なく継続して議論することが望ましいと感じており、後々スケジュールが詰まることも避けたいと考えている。事務局が「問題ない」という認識を持たれていれば、心配はないが、念のためご意見を確認したい。

（事務局）

○　本日の資料への記載はしていないが、県内市町の担当者を集めた会議を開く必要があると考えており、そういった会議を踏まえ、必要に応じて、個別に市町と意見交換をするなど、時間をかけて準備したのち、６月にスタートを切りたいと考えている。

（金光委員）

○　当初、県が先導役となって、地域公共交通ビジョンを策定し、新しい公共交通政策を考

えていくという話を聞いた時から、正直どういったものができるのか、期待と不安を持って会議に参加していた。

○　我々の方から「取組・支援をお願いしたい」といった意見も、施策の方向性の中に組み入れていただき、まず、御礼申し上げたい。

○　また、県の地域公共交通ビジョンと、従来の市町単位での地域公共交通計画がどのように連携、一体性を持って進めるのかが気になっていた。その仕組みづくりについても、エリア分科会を１つの場とし、個別にもご説明いただけるという説明もお聞きしたので、市町側としてもこのビジョンに沿って事業者共々、皆様方と一体となって進めていかなければいけないと、思いを新たにしている。

○　その中で、今後エリア分科会での役割がかなり重要になってくると思っている。現状から言えば、各地域の地域公共交通は待ったなしの状況である。毎年かなり厳しい状況が課題として出てくるのではないかと想定している。施策の効果発現状況、評価及び見直しについて議論していくことになると思うが、施策の方向性の見直しについても、随時こうした課題に的確に対応していけるよう、速やかにご検討いただけるような形で進めていただきたい。

○　市長会、町村会では、国に対して財政支援も含めた制度要望を取りまとめているところである。今後、エリア分科会での議論も踏まえながら、国への制度要望も含めて積極的に取り組んでまいりたい。引き続き、事業者の皆様のご支援もいただきながら、本ビジョンの目指す姿が実現できるように取り組んでまいりたい。

（藤原会長）

○　本ビジョンを実効性のあるものにしていくという姿勢が重要である。また、県民に本ビジョンの考え方等が浸透していくことも重要であり、早くアクションを起こし、見える化していくことが必要である。

○　施策の実行や取組においては、「リソースが足りない」ということが言い訳になりがちであるが、本ビジョンでは、人材育成を進めていくという点を明記している。

○　視点を大きく変えると、地球課題に対しては、国家間の調整があり、日本国内では都道府県間の調整があり、県内ではエリア間の調整があり、エリア内では市町間の調整があり、様々な調整が存在する。しかし、それらの調整は、一方通行的な許認可、届出、配分になりがちであった。本ビジョンでは逆向きの依存関係を構築できたことが非常に重要である。

○　来年、一部メンバーも刷新され、新しいプレイヤーが入ってくると期待している。マネジメント力の強化に向けた取組を進めていきたく、委員の皆様方にもぜひ進めていただきたい。

（藤原会長）

○　ここまでで、本日の議題は終了であるが、本ビジョン策定にあたり、アイデアを持ち寄っていただき、策定の原動力となったワーキンググループの委員の皆さまには、ご尽力に対して感謝申し上げる。
○　最後に、ビジョン本編の 106 ページにワーキンググループの各委員からの想いが綴られている。改めて、この思いの行間部分についても補足のコメントをいただきたい。

（渡邉副会長）
○　従来、地域公共交通会議の場では、計画を策定することに専念することが多かったが、本ビジョンは協議会、エリア分科会、部会、人材育成研修の全てが動いており、4 月からスタートではなく、すでに動き始めている。
○　個人的に大事にしたいことは、106 ページコメント３行目に記載した『県民の皆様には、地域公共交通を自らの現在の生活のためだけでなく、現在地域公共交通に乗らない方も含め、将来的な自らの移動手段や自分の子孫の世代の移動手段としての意識をもって利用して頂きたい』という点である。将来のことを含めた考え方で、今から取り組まないと大変なことになるという認識である。
○　県民の皆様にもそういう考えを持っていただき、エリア分科会で利用転換策の議論をしつつ、県や市町が一体となって地域公共交通、まちづくりのあり方を考えていければ良いのではないか。

（伊藤委員）
○　これまで市町単位で計画や施策を立てていたが、各市町の協議会委員として、私自身も隣町のことも含めて考えなければならないと感じている。その点について議論しやすい枠組みを用意いただいたことが、本ビジョンの策定で前進した点だと感じている。
○　後半に財源について記載しているが、限られた資金の中でできることを模索することも重要でありつつ、地域公共交通は必要なものとして、投資をするという議論を今後も考えていきたい。
○　補足として、自動車交通と地域公共交通の関係を踏まえて、地域公共交通のことを考えていかなければならないと考えている。コロナ禍で自動車交通量が減って、事故も減っている。自動車交通を少し減らして、地域公共交通を利用してもらうということをすると、事故削減にも寄与する。自動車交通と地域公共交通のバランスもよく踏まえて、施策を考えてもらえたらと思っている。

（神田委員）
○　ビジョン本編の参考資料に、開催経緯が記載されているが、すべて足し合わせると 46 回も会議をしてきた。大変、密にコミュニケーションをとってきた。また、この会議以外にも年に４回の人材育成研修が開催されているので、合計 54 回、この２年間で議論の場があ

った。

○　目指す姿の言葉選びは非常にこだわっており、最終的には２案出して知事の意見を聞いた。特に、社会基盤という言葉、価値を高めるという言葉にはこだわった。交通から広島を支えていく、交通全体で広島を支えていくという想いを込めたフレーズである。

○　今後はどのように浸透させていくかがテーマであるが、エリア分科会だけでなく、人材育成研修の中でも地域のまとまりを意識することで、縦・横のつながりが効いてくるように思う。我々が各地の地域公共交通会議に参加しても、言葉が通じるようになってきたと実感している。

○　県でもエリア分科会、人材育成研修、データを軸とした連携を、絶え間なく推進していただきたい。

（力石委員）

○　藤原先生が住民の方へわかりやすく伝える必要がある時は、「交通の専門家は、まちのお医者さんです」と伝える。お医者さんという見方で捉えると、今回のビジョンは延命治療ではなく、根本治療にどう取り組むかを、基礎において議論してきた。伊藤先生が仰ったような自動車から地域公共交通への転換についても議論していくべきものと考えている。地域公共交通会議が議論の主たる場となると思うが、その外側との連携について、このビジョンには大いに盛り込んでいただいたと思う。

○　我々が抽象的に議論した内容、話題を飛ばしながら議論した内容を、丁寧に補完していただき、事務局には感謝している。

○　策定した後、どう推進するかは、ワーキンググループでも議論しているが、工夫が必要だと感じている。例えば、ヨーロッパにおける環境問題に対する認知の広がり方や県民や市民への浸透の仕方はうまくいっている例である。環境への配慮がないと資金調達が難しくなるなど、環境問題に対する意識変化に連動して、社会システム全般が変化している。

○　地域公共交通も、それと同様に、意識の変化に連動して社会システムを変えていく必要がある。そういう意味で、ビジョンが浸透することは重要である。我々も、「浸透する」「浸透させる」ことに対する重要性の理解が深まったと感じている。

○　また、抽象的な議論だけでなく、具体的なアクションについても議論しないといけない。例えば、子供が塾に通うのに、「駅から塾まで歩かせることが不安である」ということがバリアになっているとしたら、地域公共交通の改善だけでなく、町の中で地域公共交通をつかう小学生が増えることも安全の向上に寄与するし、まちづくりとの連携がないと地域公共交通への転換は進まない。

○　地域公共交通について 23 市町の横の連携は進みそうだと思うが、それだけでなく、まちづくりと連携しないと利用者増は難しい。

（藤原会長）

○　４名の先生方には、多忙な中時間を惜しまずお付き合いいただいたが、実質的な議論を自分ごととして捉えていただいていることを本当にありがたく思う。エリアに落とし込むと、エリアの中でのコンフリクトがあるが、未来と現在のコンフリクトやエリア間のコンフリクトについて、このビジョンではそれらを構造化してくれた。関係性を明確にし、解決策に重み付けをしてくれている。そういった意味で、価値のあるビジョンになった。

○　広島県の考え方、発想、文章、イラストは、他都道府県にぜひお伝えいただき、世に出ていけばいいと思っている。

○　市町の方々、県の方々、交通関係者の方々、こういった方々に集まっていただけたことに感謝する。

岡田委員より、閉会にあたってのご挨拶

（岡田委員）

○　藤原会長をはじめ、委員の皆様方におかれましては、本県の交通ビジョンの策定にあたり、この２年間、熱心にご議論いただき、誠にありがとうございました。また、ワーキンググループの４名の先生方におかれましては、30 回を超えるワーキンググループだけでなく、各地域のエリア分科会などでも、ご尽力賜り、お世話になりました。

○　本県の地域交通を取り巻く状況は、人口減少による需要縮小、交通事業者の収支悪化、運転手不足等、より深刻さを増しており、ビジョンの策定は、本県の持続可能な地域公共交通の実現に向けた、第一歩ではないかと考えている。次年度は４月から新たに、公共交通政策課を設け、交通ビジョンに基づく中長期的な交通政策を推進することとしている。

○　来年度以降は交通ビジョンの実行のフェーズに入るため、目指す姿に実現に向けて、交通事業者や市町の皆さま、県民の皆さまと一体となりながら、休むことなく、より一層努力してまいりたい。

（事務局）

○　以上で、第７回協議会を終了する。ビジョン策定後初めての協議会は、今年６月を予定している。詳細は決まり次第、事務局より連絡する。

以上